

真狩村

1334 木野克哉

1. 真狩村概要

1.1 地名の由来

アイヌ語で「マカリペツ」(意味は「羊蹄山を取り巻く川から転化したもの」と呼ばれていたことがあり、そこから派生した。

1.2 村旗・村章とカントリーサイン

真狩村の頭文字「マ」をイメージして組み合わせ 6 稜星を形取り稜線は羊蹄山の形を表し、融和団結のもとに豊かなふるさとの限りない発展を意味している。

また、カントリーサインにも羊蹄山がデザインされており、天気がいい日は羊蹄山がくっきり見えて綺麗である。(詳細は後述を参照)

1.3 真狩村の場所・地理

面積 114.43 km²、東経 140°北緯 42°に位置し、東西 16.1 m・南北 19.4m、標高 220mである。

札幌に比較的近い場所に位置しており、私が真狩村に実際に行ったとき、札幌市～真狩村間は 1 時間 30 分～2 時間程度であった(道路の渋滞状況・路面状況による)。

図 1 真狩村村旗



出典：真狩村 HP

図 2 真狩村村章



出典：真狩村 HP

図 3 カントリーサイン



出典：北の道ナビ HP

図 4 真狩村の位置



出典：真狩村 HP

2. 真狩村の歴史

2.1 真狩村の歩み

真狩村が最初に紹介されたのは江戸時代である。松浦武四郎の「後方羊蹄日記」で 1857（安政 4）年に紹介された。殖民・開基されたのはそれからもう少し経った 1895（明治 28）年のことである。香川・徳島県民 5 戸 18 名がマッカリベツ原野に移住してきたのが発端となった。その後は分村が相次ぐ。1897（明治 30）年に虻田村から真狩村（この時代の真狩村には現留寿都村・ニセコ町などを含む）が分村した。さらに 1901（明治 34）年には狩太村（現ニセコ町）が真狩村から分村され、続いて 1917（大正 6）年には喜茂別村が分村された。1936（大正 11）年には真狩別村が分村されて、1941（昭和 16）年にこの真狩別村が真狩村に改称された。

以後は合併の話が出てくる。1954（昭和 29）年には知事から留寿都村と合併するように勧告を受けたが 3 年後の 1957（昭和 32）年に合併を中止した。以後周辺地域（蘭越町、京極町、ニセコ町、喜茂別町、留寿都村など）との合併話が出るもいずれも実現しておらず、現在に至っている。ただし、合併を協議する際はいくつかの町村（3～4 町村）が合同で協議会を開催している。

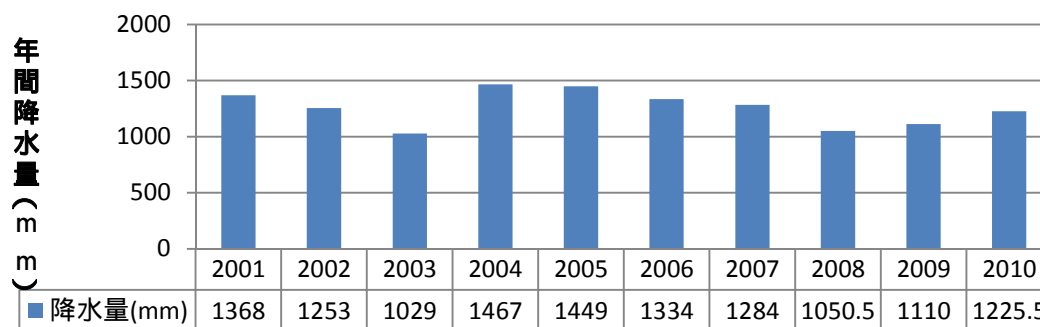
2.2 農業関連

真狩村は農業が盛んなので、そのことについて話を展開していこうと思う。1948（昭和 23）年に真狩村農業協同組合と真狩村農業共済組合が設立されて、さらに 1951（昭和 26）年には真狩村農業委員会が設立された。また真狩村は百合根の生産が盛んであることで有名で、1961（昭和 36）年からこの百合根の本格的生産が始まった。それに伴い 1966（昭和 41）年に真狩村百合根生産組合が設立されている。

3. 真狩村の気候

3.1 降水量

グラフ1 年間降水量(平成13年～平成22年)

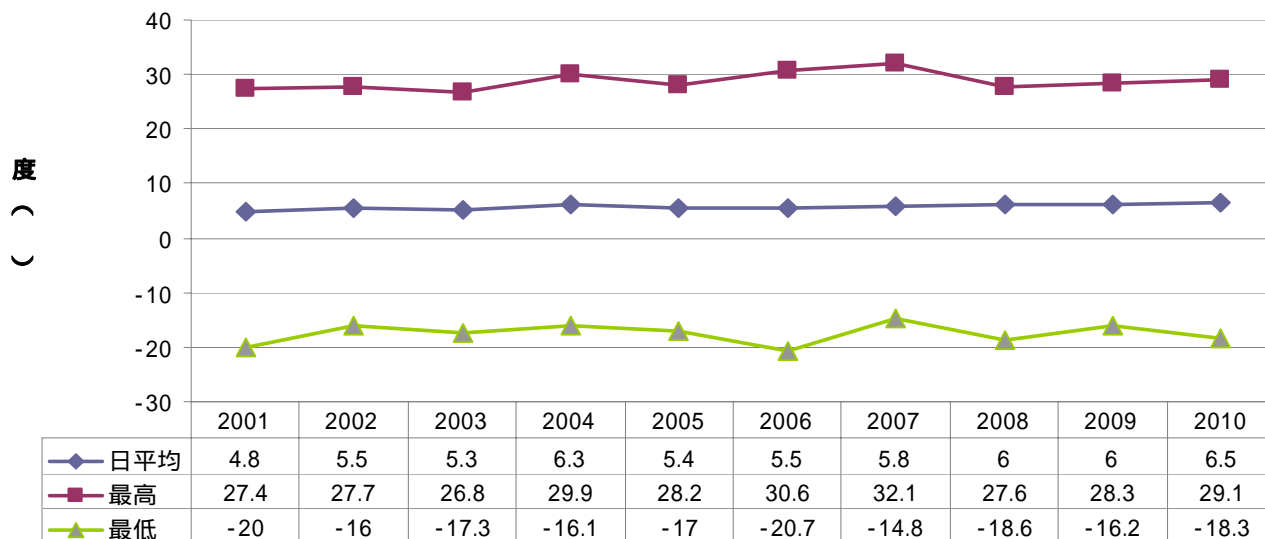


出典：気象庁 HP より筆者作成

真狩村の降水量は 1000mm～1500mm 台を比較的安定傾向で推移していることがうかがえる。

3.2 気温

グラフ2 日平均気温・最高気温・最低気温
(平成13年～平成22年)



出典：気象庁 HP より筆者作成

真狩村の気温は夏は暑く、冬は寒いという傾向があるようだ。最高気温、最低気温も年によっては若干の変動があるものの、さほど変わらないのが現状であるといえる。

3.3 風

表1 真狩村と近隣4町村の風速
(2010年)

	平均風速(m/秒)	最大風速(m/秒)
真狩	2	13.3
喜茂別	1.7	11.7
倶知安	3.2	18
小樽	2.6	15.5
余市	2.5	15.9

出典：気象庁 HP より筆者作成

図5 表中の市町村分布図

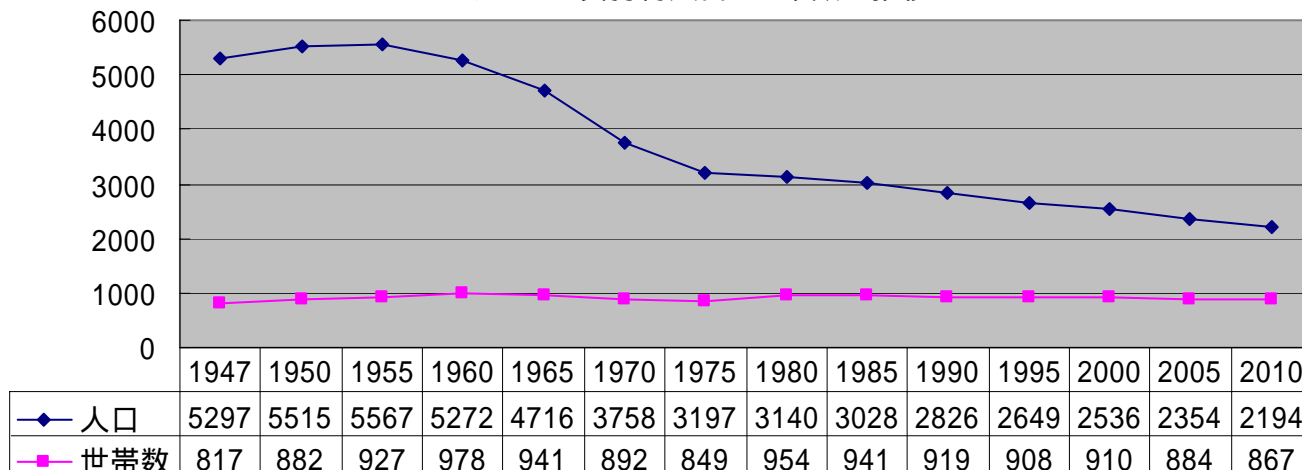


出典：地方自治情報センター（一部加筆）

風速については近隣4市町村で比較したいと思う。風速については羊蹄山を挟んで変わっているようである。羊蹄山の南西に位置する真狩村はあまり風が吹かないということがいえるだろう。

4. 人口総数・世帯数推移

グラフ3 真狩村人口と世帯数の推移

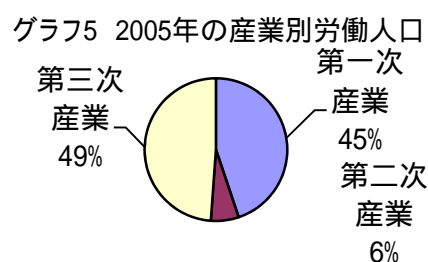
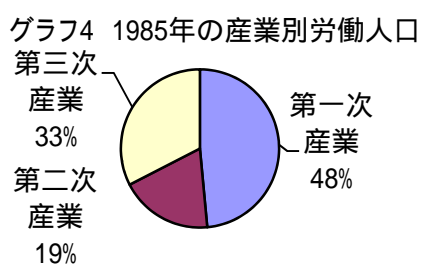


出典：総務省統計局「国勢調査」1947～2010年分より筆者作成

真狩村の人口は1950（昭和30）年の5567人を境に減少傾向にあり、2010（平成22）年時点で2194人となっている。しかしながら世帯数は一向に変わっていないため、核家族化が進行していると言える。ちなみにピーク時の1950（昭和30）年の1世帯あたりの人口は約6人に対し、2010（平成22）年の1世帯あたりの人口は約2.5人となっている。

5. 真狩村の産業

5.1 産業別労働人口



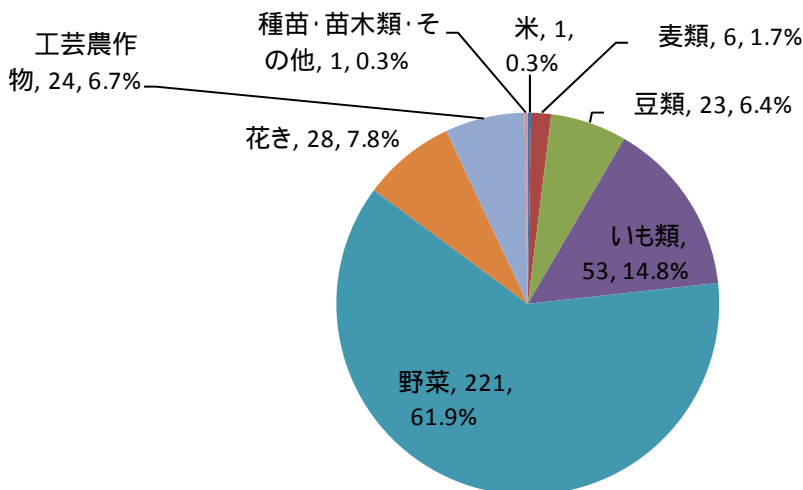
出典：総務省統計局「国勢調査」より筆者作成

出典：総務省統計局「国勢調査」より筆者作成

上記のグラフは真狩村における1985（昭和60）年と2005（平成17）年の産業別労働人口の割合である。2つのグラフを比較してみると、第二次産業が減少している分、第三次産業に従事する人が多くなっていることが伺える。

5.2 農業生産額

グラフ6 農業産出額の割合(2006年)



出典：農林水産省 HP より筆者作成（単位：千万円）

ここからは真狩村は農業が盛んに行われているので、それを念頭に話を展開していこうと思う。農業生産額の割合を見てみると、野菜が圧倒的多数を占めていることがわかる。ここで注目したいのが花きである。真狩村は百合の生産が盛んなため生産額が高くなっている。

一番生産額の多かった野菜に注目してみる。一番収穫量が多いのは馬鈴薯で圧倒的である。その次は大根となっている。

表2 野菜の作付面積・収穫量

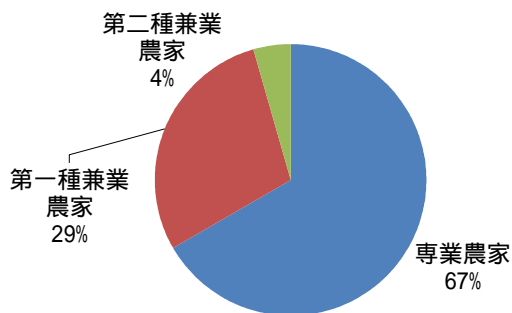
	作付面積(ha)	収穫量(t)
だいこん	196	8,615
ばれいしょ	486	15,700
はくさい	2	55
キャベツ	5	140
ほうれんそう	1	10
ねぎ	1	19
きゅうり	1	7
トマト	1	21

出典：農林水産省 HP

5.3 農業従事者

真狩村における農業数は163戸でそのうち販売農家は156戸、残りは自給的農家となっている。販売農家のうち、一番多いのは専業農家であることがグラフから読み取ることが出来る。

グラフ7 販売農家内訳の割合(2006年)



出典：農林水産省 HP より筆者作成

5.4 特産品

歴史の範囲でも触れたが、真狩村は百合根の生産に力を入れている。2009（平成 21）年に真狩村産業課が調べたところ、百合根の生産農家数は 109 戸で作付面積が 32.3ha、総生産量 610t となっている。

百合根はもちろん食用なので天ぷらにしたり、コロケの中に混ぜてみたりと用途は様々である。また、道の駅には百合根入りのどら焼きも販売されている。

図 6 百合根の写真

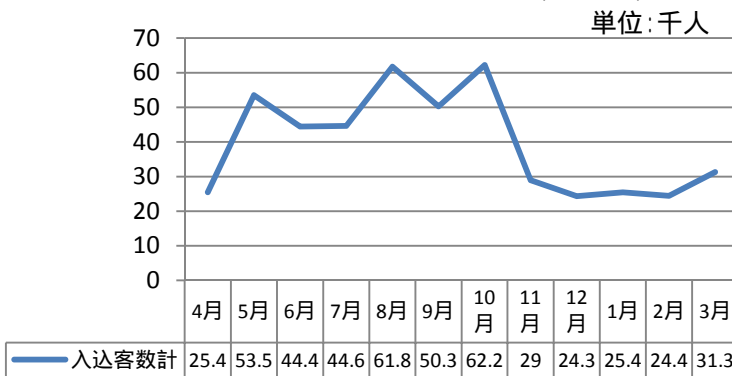


出典：真狩村 HP

6. 真狩村の観光

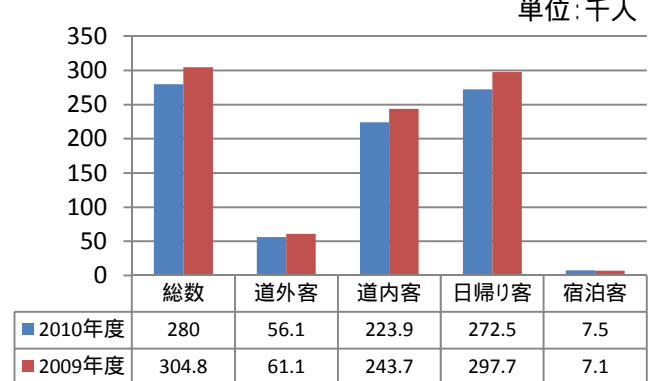
6.1 真狩村の観光入込客数

グラフ8 月別観光入込客数計(2010年)



出典：北海道後志総合振興局 HP より筆者作成

グラフ9 年別観光入込客数の内訳



出典：北海道後志総合振興局 HP より筆者作成

真狩村の観光客を見てみる。通年のデータを見てみると、冬場は観光客が少ないが、夏場が多いことが見てうかがえる。私の予想だが、これは湧水を汲みに来る観光客などが多いためではないだろうか。

また、右のグラフから 2009 年度の観光客総数は 304800 人で 2010 年度は 280000 人と減少傾向であることが見て取れる。内訳も宿泊客数は若干の上昇を見せているものの、他は減少しているため、観光名所の増設など近年観光に力を入れているのである。

6.2 羊蹄山

真狩村の観光名所で真っ先に挙げられるものは羊蹄山だろう。春は雪を被った様子、夏は緑が生い茂り、秋には紅葉、冬は雪化粧と四季折々の風景を楽しむことができる。

右の写真は春先に私が撮影した羊蹄山の風景である。天気の良い日は

図 7 羊蹄山の風景



出典：筆者作成

このように山頂までくっきり眺望することができる。

6.3 真狩樹木園

真狩樹木園は支笏洞爺国立公園内にある樹木園で、1956（昭和31）年に地域住民の「憩いの森」などを目的として作られた。

羊蹄山麓の原生林の一角で、冷清水を湧出する扇状地に、外国樹種や道内外の樹種約80種を植栽した見本林と天然林とが一体となった森で、植物はミズナラ、ハリギリ、シナノキ、オヒョウ、エゾイタヤ、カンバ類、トドマツ、アカエゾマツなどが植えられていて、生き物に関してはエゾリス、シマリス、キタキツネ、クマゲラなどが生息しており、エゾリスが食べ残した「穴のあいたクルミ」「エビフライのような松ぼっくり」なども観察可能である。

春には、エゾエンゴサク、エンレイソウ、マイヅルソウなど多くの草花が咲き乱れ、5月中旬にはエゾヤマザクラが満開になる。また、秋には、カツラ並木が黄葉し、秋の風景を楽しめる。湧水を貯めた池、芝生の広場、遊歩道、駐車場などもあり、気軽に訪れることができる。

6.4 細川たかし氏

今や紅白歌合戦にも出場しているほどの大物演歌歌手となった細川たかし氏は真狩村出身である。その偉業を讃えて真狩村には銅像が建てられている。また、細川たかし記念館も建てられていて、真狩村全体で細川たかし氏を応援していることが伝わる。

また、銅像には手形がいくつかついており、その手形に触れると細川たかし氏の曲が流れるという仕組みになっている。

6.5 まっかり温泉

真狩村で有名な温泉はまっかり温泉である。源泉かけ流しの本格的な温泉であるこのまっかり温泉の最大の特徴は露天風呂から眺望できる羊蹄山である。四季によって顔を変える羊蹄山の風景を楽しみながら入る温泉は格別である。

図8 真狩村樹木園の看板



出典：真狩村 HP

図9 真狩樹木園の様子



図10 細川たかし像と羊蹄山



出典：真狩村 HP

図11 まっかり温泉



出典：真狩村 HP

6.6 道の駅 真狩フラワーセンター

真狩村には道の駅があり、それがこの真狩フラワーセンターである。「花」をテーマに様々な品物がたくさん並んでいる。農産物もたくさんあり、特産物のゆり根も人気がある。

また、細川たかし氏の展示物も様々あり細川たかし氏についても知ることができる。

図 12 真狩フラワーセンター



出典：真狩村 HP

図 13 細川たかし氏展示コーナー



出典：真狩村 HP

6.7 湧水の里

真狩村は何度も触れている通り羊蹄山が近いため、羊蹄山から湧水が流れてくる。湧水は汲むことが出来るため、札幌などからこのためにペットボトルやタンクを持ってやってくる人も多くいる。

また、この湧水で作った料理は絶品で味噌汁や豆腐、その豆腐を使ったドーナツなどはおいしい。

図 14 湧水の里



出典：真狩村 HP

7. 真狩村に伝わる話

真狩村には忠犬ポチという話がある。真狩村郵便局局長の村上政太郎氏が猛吹雪の中電報配達を届けに出掛けたまま殉職するという痛ましい事故が発生した。これは実話で 1917（大正 7）年 1 月 16 日から 17 日にかけて起こった出来事である。

局長は愛犬であるポチとともに電報の配達に出掛けた。無事電報を届けて帰路に着くとき、局長とポチは猛烈な吹雪にあう。必死に歩く局長だが、家まであと 1 km のところで寒さと疲労で力尽き、倒れてしまう。ポチは局長のそばに寄り添い温めようとしたが、しばらくして立ち上がって家まで駆けだした。家に着くとポチは吠えたが返事はなく再び局長のところに戻る。家には人がいて遠吠えのようなものを聞いたが、ポチと

図 15 紙芝居中の一コマ



出典：真狩村 HP

（製作者は真狩高校の生徒）

は気が付かず気に留めなかった。

戻ったポチは何とかして局長を家に連れて行こうとしたが、どうすることもできずポチは郵便局に向かって走った。しかし、郵便局の人も局長は泊めてもらっているのだと勘違いして眠ってしまっていたため気づかなかった。ポチは狂ったように吠えたが誰も気が付かず、また局長のもとへ走った。

翌朝、郵便局の人が局長が遭難していることを知り村人総出で必死に探した。するとポチを発見し生存が確認されるも、局長は死亡していることが確認された。

上記の話は真狩村 HP に掲載されていた子供たちに向けた紙芝居を参考にした。

参照ホームページ一覧

- ・ 真狩村 HP : <http://www.makkari.info/>
- ・ 気象庁 HP : <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・ 総務省統計局 HP : <http://www.stat.go.jp/index.htm>
- ・ 農林水産省 HP : <http://www.maff.go.jp/>
- ・ 地方自治情報センターHP : <https://www.lasdec.or.jp/cms/1,0,69.html>
- ・ 北の道ナビ HP : <http://northern-road.jp/navi/>
- ・ 北海道後志総合振興局 HP : <http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/>